

現場実習について

毎年、前期・後期と地域の皆様にご協力いただきながら、現場実習を行っています。

この実習期間を終了したとき、毎回生徒達にたくましさを感じます。学校とは異なる環境の中での生活を経験し、最後までやり抜いたことが、生徒の自信につながっているのでしょう。

実際に経験するのは、卒業した後に実際に想定される活動や作業。バスなのか、徒歩なのか、電車なのかという通勤方法。何時に家を出るのか、時間に間に合うように移動できるか、お弁当は持って行くのか、疲れないように何時に寝るのか、余暇の過ごし方をどうするかなどの生活サイクル。また、現場の支援者とのやりとりはどうするのか、報告・連絡・相談等を自分からできるかなどのコミュニケーション…、等々。卒業した後に実際の生活として続けられるか、生徒自身に感じてもらうだけでなく、保護者にも考えてもらう機会となっています。

一方で課題も浮き彫りになります。現場から求められることは何か、障がい特性としてどんな支援が必要なのか、習熟するために何をしたら良いか、生活を続けていくためには何をできるようにした方が良いのか等、本人・家族・教師に見極めが求められます。

高等部卒業後の進路選択をしていくのは、卒業の頃（3年生の3学期）ではありません。現実的には3年生に進級したときに、自分の進路の方向を選択しておく必要があります。そこから逆算していくと、2年生・1年生それぞれの現場実習で、将来を考えながら取り組むことがしっかりとしていないと、3年時での進路実現にはつながらないのが現実です。卒業の時に間に合わせて進路先を決めることはできるかもしれませんが、卒業後の生活定着は難しく、支援者が少ない中で、家族が何とかしなければいけない状況が多くなります。

進路実現へ向けては本人・保護者・教師・地域の支援者・様々な巡り合わせも大切です。進路の決定は誰か一人が、がんばればいい訳ではありません。将来を見通して、それぞれが取り組み、引き継いで、ようやく実現するようになります。卒業後の生活を考え、試し、実現につなげて上で、実習はとても重要な活動になります。



現場実習の取組について

特別支援学校では、多くの学校で「現場実習（産業現場等における実習）」を行っています。当校でも年2回実施しています。

「ふれあいジョブ」と異なるのは、自宅から出勤した後、実習先で1日の業務や活動を行い、直接帰宅。それを何日間か継続して行います。

そのため、通勤の仕方や実習先での活動、疲れの取り方、休日の過ごし方等々を、高等部卒業後の生活と照らし合わせながら行う必要があります。

この現場実習でどんな目的や課題をもって取り組むかによって、次の実習に何を積み上げていけるか、現場から求められる力がつかか、卒業後の進路先の生活サイクルにつながるかが変わってくるのです。

今回は現場実習の実施内容とともに、主な生徒の活動の流れを紹介します。

《概要》

① 時期・期間

前期 6月中旬 ～ 7月上旬 対象；高等部2・3年生

後期 11月中下旬 ～ 11月下旬・12月上旬 対象；高等部1・2・3年生

※1年生 … 1週間、 2年生 … 2週間、 3年生 … 3週間

※実習時間や実習期間は生徒の様子や受け入れ先の状況に応じて相談させていただきます。

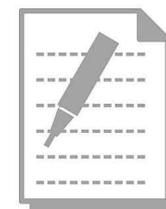
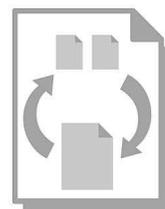
② 人数

1事業所、1日につき高等部生徒1～2名の受け入れをお願いしています。

③ 引率

必要な場合に当校職員が付添または巡回支援します。

必要な支援等について説明させていただきます。



現場実習での主な流れ（生徒の活動の流れ）

<現場実習開始前>

●事前学習

授業の中で自分の実習先について、場所や通勤方法、作業・活動内容を確認し、実習での目標等を決めていきます。

●現場実習激励会

福祉事業所の方や卒業生や就業・生活支援センターの支援員、企業の社長さんなどを外部講師にお招きして、働く上で大切なことや求めている人材、実習で気を付けるべきこと、卒業後に必要な力等を講義してもらいます。

また生徒たちは、実習での目標発表を行い決意を固めて、実習に臨みます。



<現場実習期間中>

●各現場の様子

それぞれの現場で生徒が一生懸命に取り組んでいます。時にはトラブルも発生しますが、対応方法等も勉強しながらの実習です。教員が実習先を巡回し、職場での様子を見たり、職員から話を聞いたりし、生徒や現場の方へ、困りごとなどの相談や助言をしています。

※現場の様子



農業会社での実習。資材運びを中心に行いました。広い屋外での作業におけるコミュニケーション、作業の把握、安全確認など大切なことが多かったです。



生活介護事業所の様子。作業だけでなく、余暇的な活動も皆さんと一緒に取り組みました。



きもの会社で、たとおしの紐通しを行いました。丁寧に扱いつつ、完成の量を求められました。



就労系福祉事業所の様子。梱包用の仕切りを組み立て作業。繰り返しの作業で、集中力の持続が大切になりました。



高齢福祉企業での実習。シーツ交換や食事準備など行いました。お客様に合わせて臨機応変に勤務することが大切でした。



就労系福祉事業所の様子。立ちっぱなしの製菓作業。衛生面、数量の確認などに気をつけて作業しました。

<現場実習後>

●現場実習報告会

実習後、授業の中で振り返りを行います。同じような職種、同じような課題の生徒をグループ別にし、少人数の中でお互いの実習先の様子や現場で困ったこと、気を付けて行ったことなどについて意見を出し合い、話を聞きます。

話し合った内容、発表の内容を基に、個人でこれからの課題や目標を考えていきます。

